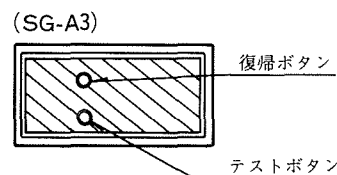
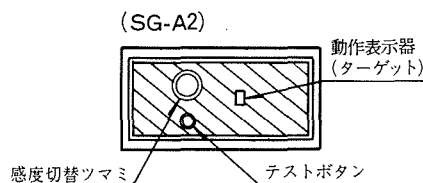
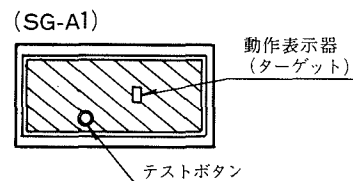


■使用上の注意

1. 漏電検知器の操作面は器種により右図のようになっています。
 - a. 動作表示器付のものは、検知器が動作すると、動作表示器が4mm程度飛び出します。押しでリセットするまでは補助接点が切替わっていますので、漏電箇所修復後必ずリセットしてください。
 - b. テストボタンや動作表示器は軽く押すだけで働きますから必要以上に強く又は、長く押さないでください。
 - c. 感度切替えのあるものは、できるだけ高感度のタップでご使用ください。
 - d. SG-A3型は、内装のテストボタン、復帰ボタンと併用して遠隔操作用外部テストボタン、外部復帰ボタンを取付けることができます。
2. この漏電検知器は、零相変流器を付属していますので、必ず検知器と同一番号のものをご使用ください。
3. 電源端子には、必ず規定の電圧を接続してください。まちがって接続されますと、内部回路が破損することがあります。
4. 本器は、堅ろう、かつ入念に製作していますが、使用前(連続使用の場合は使用中時々)必ず試験ボタンを押して確実に動作するか否かを確認してください(労働省安全指針による)。
5. 電源端子間の耐圧試験、メガ測定はしないでください。



■施工上の注意

1. 漏電検知器増幅部は防じん防湿構造になっていますが、機構部に粉塵や水滴が沢山入りますと支障が起きる可能性がありますので、そのような恐れのある場所では、適当な防護箱に入れてご使用ください。
2. 配線用しゃ断器には、トリップコイル(T.C)保護用マイクロスイッチを内装しているものと内装していないものがあります。これらとSG-A型検知器の配線は使用例(P208)のように行ってください。マイクロスイッチが入っているかどうかはテスター等により確認してください。
3. 零相変流器の取付けには下記の点にご注意ください。
 - イ. 零相変流器は、しゃ断器および電磁開閉器の操作電源よりも電源側へ入れるようご配慮願います。
 - ロ. 零相変流器は、なるべく電線の直線部分に取付けてください。(右図参照)
 - ハ. 零相変流器の近くで電線を曲げる場合は、できるだけ変流器より離して曲げてください。また大電流が接近していると感度変化や誤動作が生じる恐れがあります。
- ニ. 零相変流器に電線を貫通させる場合、貫通穴の中心に寄せて、貫通線の中心が正三角形となるように配置してください。
- ホ. 使用例2)のように正しく零相変流器を設置してください(P208)。

検知器	トリップコイル保護用 マイクロスイッチ内装のとき				トリップコイル保護用 マイクロスイッチなしのとき			
	使用例 A	使用例 B	使用例 C	使用例 D	使用例 A	使用例 B	使用例 C	使用例 D
SG-A1	○	○	○	×	○	○	×	×
SG-A2	○	○	○	×	○	○	×	×
SG-A3	○	×	×	○	○	×	×	○

○印使用可 ×印使用不可

